

尾刃カンナ の生態

発情期
について

PRESENTED BY NATTO COLA

Blue Archive FanBook



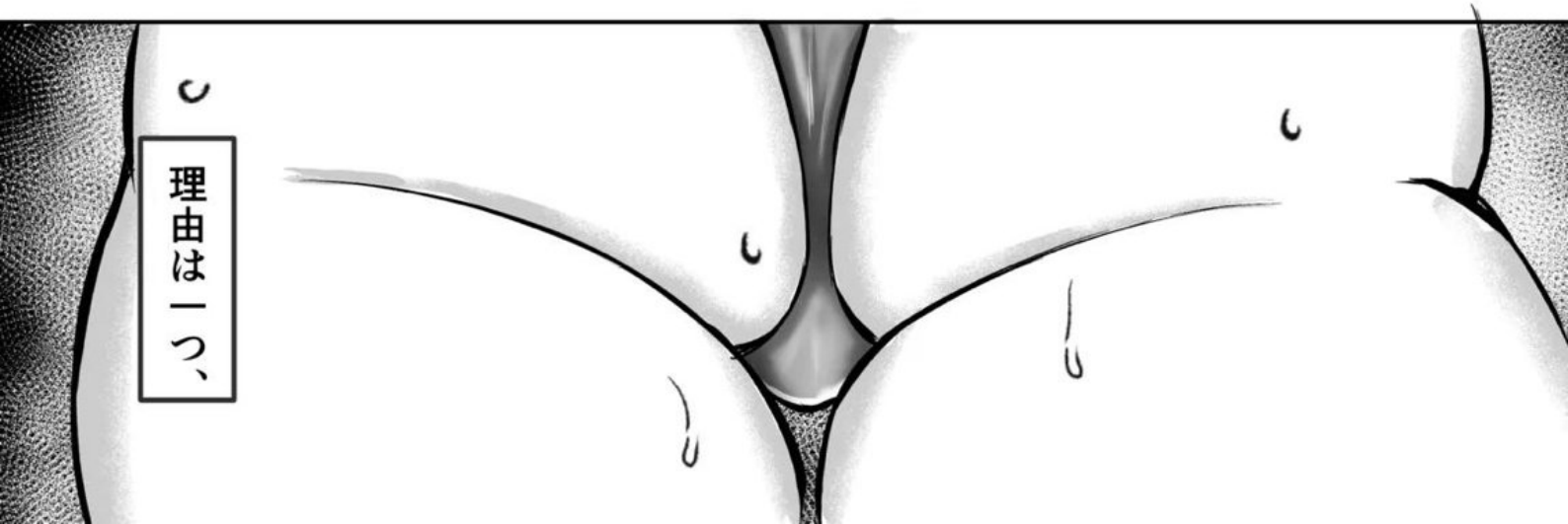


とあるホテル



数か月に一度、
カナナから呼び出しがかかる。

ヴァルキューレではなく、
とあるホテルの一室にだ。



理由は一つ、

発情期だ。

本来は一人で
処理するとの事だが、

いつ頃からか
私も協力している。

健気に私の好みに
合わせた衣装で
お出迎えしてくれる。

非常に愛らしい。

ドクドク♡

ドクドク♡



この段階では彼女の理性は
かろうじて残っている。

発情期のため
すぐにでも性行為に
走りそうなものだが、

カンナは言葉責めや
キスなどの愛撫といった
愛情表現が好みらしく、

これが無いと
後々不機嫌になる。





膣がほぐれ
性器の潤すことで、

もちろん乳首責めや
女性器への愛撫など
前戯も怠らない。



交尾による
体への負担を
幾何かやわらげ、

快感をより感じる
ことができる。

より膣をほぐすため
口と舌で丁寧に行う。

特に舌を使い、
膣を丹念に耕す。



ただ丁寧にやりすぎると
気を遣ってしまう様なので
注意が必要だ。

ここまですると
女性器も膣内も
ホカホカになる。(約39℃)

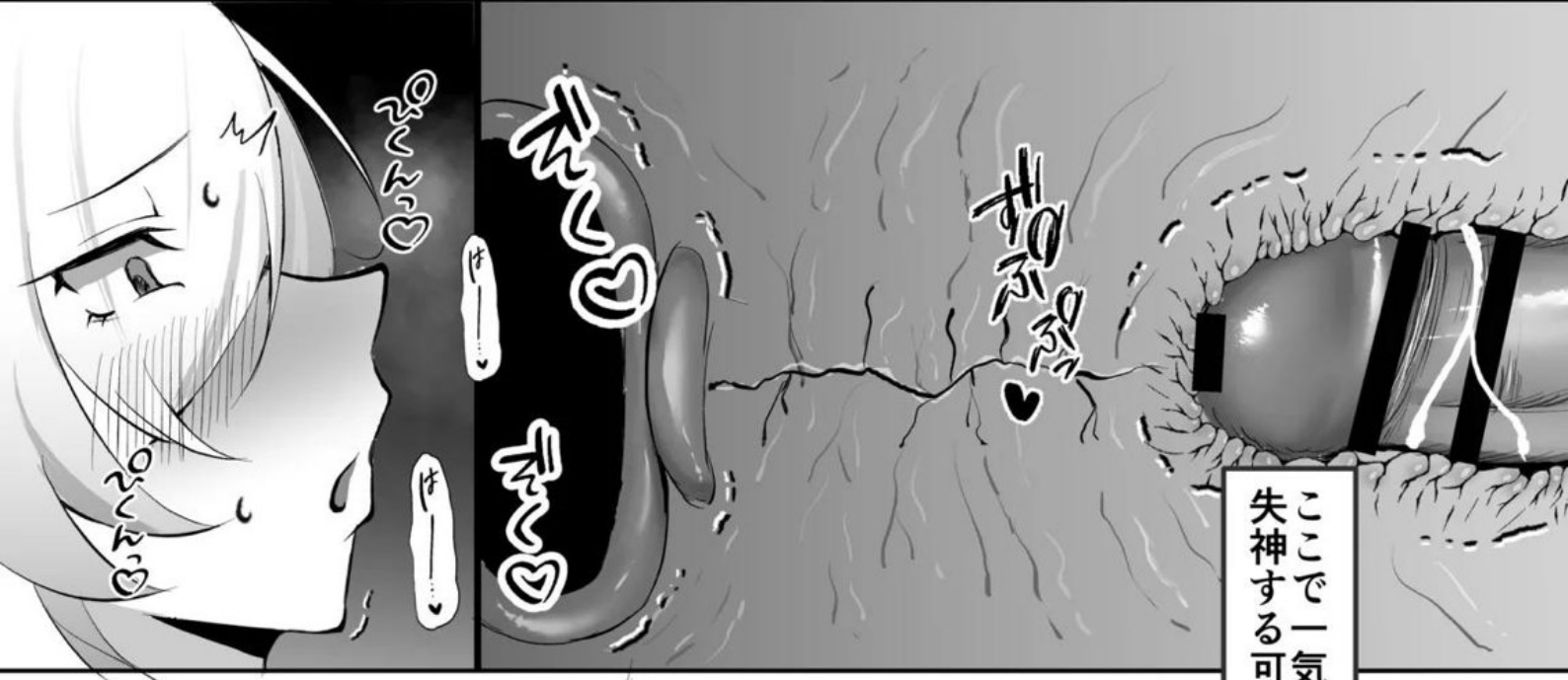
唾液のみで濡れていると
思われがちだが、

ほとんどは愛液(俗称:本気汁)で
上書きされているので
気にする必要はない。

いよいよ挿入となるわけだが
まずは落ち着いて男根の先端を
女性器にあてがう。

少し焦らしてあげると
カンナの方から腰を浮かせつつ、

女性器が吸い付いてくるので
ゆっくりと挿入する。



ここで一気に挿入すると
失神する可能性があるので、



膣肉を味わいながら
膣奥まで挿入する。





ここですぐに
動かしてはいけない。

挿入の衝撃で膣肉が男根を離すまいと
弛緩と収縮を繰り返すので
絶頂していることがわかるだろう。

ただカンナの顔を見れば
一目瞭然である。



足をクロスしてきて
とても愛らしい。

カンナは
キスをしながら揺らすような
動きをしてあげると、

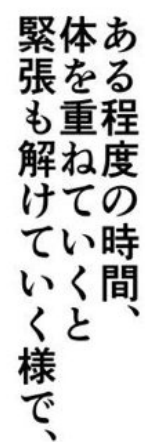


追い打ちで
体重をかけてあげると

子宮が吸い付くように
下がってくるので、

重点的に攻めてあげると
愛液がより粘りを増し、

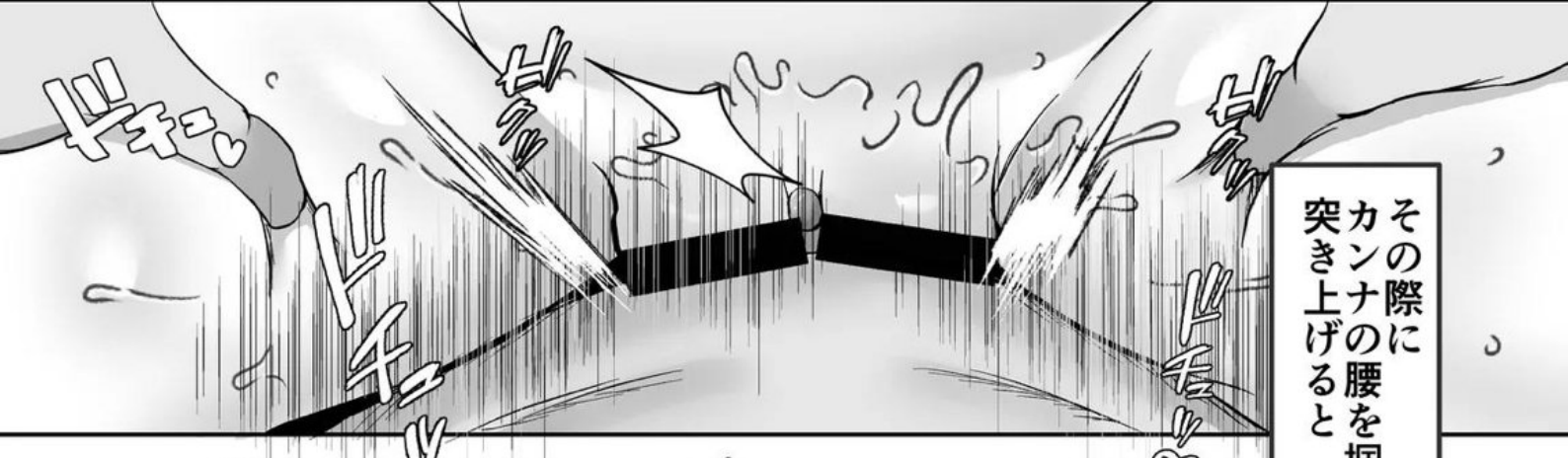
膣肉がピクピクと
締め付けてくる。



対面座位や騎乗位のよう
にカンナも積極的に腰を
動かしてくる。

そろそろこちらも限界なので
下から突き上げる。

ねろ♡



その際に
カンナの腰を掴み
突き上げると



身体が跳ね上がり、

通常聞くことの無いような
嬌声をあげるだろう。



カンナは
体力が桁違いなので
最終的には、

私自身が
絞られ食べられてしまう
というものである。

グッ



最後に注意したいのが、
始めはこちらが主導権を
握っていたが

尾刃カンナの生態-発情期について-

発行日 : 2025年8月17日
サークル名 : 納豆ユウラ
発行者 : たたんぽ
Twitter : @tatanpo468
連絡先 : tatanpo468@gmail.com
印刷所 : 株式会社サングループ

↓各種サイト



- この作品はフィクションです。実在の人物・作品・団体・出来事などとは関係ありません。
- 本書を転載・転売することを禁止します。また、18歳未満の閲覧も禁止します。
- This is a work of fiction. Any resemblance to actual persons, living or dead, works, organizations, events, or locales is entirely coincidental.
- Do not repost. Do not resale. Adults only.

尾刃カンナ
の生態
発情期
について

PRESENTED BY

納豆マン